

I. 総合研究報告書

厚生労働科学研究費補助金（女性の健康の包括的支援総合研究事業）

平成 27～29 年度総合研究報告書

女性の健康の包括的支援のための情報収集・情報発信と医療提供体制等に関する研究

研究代表者：藤井知行 東京大学医学部女性診療科・産科

研究要旨

女性の健康はその出生から生涯を通じて月経発来、妊娠・出産、閉経など性ホルモンの変動とそれに伴う疾患に大きく影響を受けることから、各ライフステージの女性ホルモン変動を意識した管理が必要である。しかしそのような発想に基づいた女性の生涯を通じた健康の包括的支援は現状では皆無である。上記のような思想を反映したライフコースアプローチに基づいた女性特有の疾患に対する啓発、教育、予防などを目的とし本研究班は発足した。このような支援をおこなうことは我が国の喫緊の課題である女性活躍、少子化解消、健康寿命の延伸を達成するためにも必須である。

本研究では、“女性の健康の包括的支援”という新たなパラダイムを打ち出し、情報の収集と発信による社会啓発、多診療科連携による統合的女性医療、相談員の養成などを介した社会的健康支援の体制を確立することを目的とし、まずは多診療科からの記事提供を受けた女性の健康に関連するホームページを立ち上げた。本研究班はホームページを活用したインターネット研究をおこなった。また、今後女性の健康の包括的健康支援を推進するために必要な「女性の健康相談員」を育成すること、医療従事者において統合的な女性診療を定着させるため、女性診療に有用なガイドブックを作成した。またホームページをプラットフォームとしたeラーニングシステムを構築することで、女性の健康管理の在り方を考え教育、相談などを実施できる「女性の健康相談員」養成の基盤を構築した。

研究分担者氏名・所属研究機関名及び所属研究機関における職名

大須賀穰

東京大学医学部附属病院・女性外科教授

秋下雅弘

東京大学医学部附属病院老年病科教授

谷垣伸治

国立成育医療研究センター 周産期・母性診療センター・産科・教育研修部(併任)周産期医学・

医学教育医長

若尾文彦

国立がん研究センターがん対策情報センター センター長

金吉晴

国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 災害時こころの情報支援センター成人精神

保健研究部 センター長・部長

対馬ルリ子

医療法人社団 ウィミンズ・ウェルネス対馬ルリ子女性ライフクリニック銀座 理事長・院長

伊藤純子

国家公務員共済組合連合会 虎ノ門病院小児科 部長

加茂登志子

東京女子医科大学附属女性生涯健康センター 所長・教授

研究目的

女性の健康は、出生から思春期から閉経期、また老年期に至るまでに女性ホルモンが動的な変動を来すことに大きく影響を受ける。女性ホルモンの変動は子宮内膜症、子宮筋腫といった女性特有の疾患に大きく関連するだけでなく、社会、精神的にも多大な影響を及ぼすため、男性の生涯における男性ホルモン変動とは異なった際立った特徴を持つ。これまでの我が国の健康支援対策において、このような女性の健康特性は不幸なことに重要視されておらず、政策的にも反映されていなかった。1986年に男女雇用機会均等法が施行されて以降、女性を取り巻く社会的環境は大きく変化しており、女性の初婚年齢の上昇、第1子出産年齢の上昇といったパラメーターにも反映されており、女性のパワーを社会経済活動に有効に取り込むためには、月経および月経関連疾患により損なわれる女性の健康を維持・改善することを積極的に支援することが必要である。

本研究班は「女性の健康の包括的支援」という新たなパラダイムを打ち出し、合計3年間に渡り研究をおこなってきた。その最重要課題として情報提供の基盤をインターネットに構築かつ更新することにわれわれは腐心してきた。「女性の健康」が1つのまとまった健康概念として把握されてこなかった関係上、既存のインターネット上にある情報も不統一で整理されていなかったため、確かなソースで確かな情報を提供することで、社会の啓発と医療・健康関係者の実践を介して我が国の女性の生涯健康を支える社会基盤を構築することを主目的とし、研究を進めていくこととした。

平成27年度に女性の健康についての多彩な情報を提供するホームページHPを立ち上げた。世代ごとの記事が必要である点を重視し、思春期から老年期に至るまでの女性の健康に関する記事を網羅するようにして幅広い層へのアプローチを試みた。記事の作成にあたっては、公益社団法人日本産科婦人科学会のバックアップを受け、情報提供を行う資料を用意した。しかし、産婦人科医師のみでは不足する事項について、女性の健康に詳しい精神科、内科、小児科、整形外科の専門家を研究班に配置するこ

とにより産科婦人科の枠を超えた内容に昇華させることが可能となった。まずはHPをプラットフォームとし、1)HP立ち上げとその更新、2)HPを活用したアンケート研究をおこなうことを目的とした。

日本産科婦人科学会では、女性のすべてのライフステージごとの疾患に対応する専門家を育成するためのヘルスケアアドバイザープログラムを作成し、受講者の教育をおこなっている。各都道府県、指定都市、中核市には不妊専門相談センターが設置されており、不妊に関する医学的な相談や不妊の悩みなどについて医療従事者が相談をするだけでなく、ある程度の医療情報提供を行っている。妊娠・出産に関しては、妊娠相談ほっとライン、妊娠出産サポートセンターなど様々な名称の相談窓口が自治体などに設置されている。それに対してはっきりとした診断がついていない、または疾患の対象がこれらと関係ないと、既存の機関には相談できない。例えば月経困難症(生理痛)ということになると、これら既存の相談窓口だと何となく病院受診を勧めるだけになってしまい、結果として背景に明らかな疾患があっても病院を受診しないのが大半の一般人の反応である。女性の疾患予防、健康増進を広く浅く吸い上げるためには、ライフコースアプローチ視点を持つある程度医療に習熟した者が担当する統一された窓口が必要である。日本産科婦人科学会で既に運用されているヘルスケアアドバイザー養成プログラムを活用することで、3)女性診療のためのガイドブックGB作成、4)HPをプラットフォームとしたeラーニング機能の開発をおこなうことにより、本研究班は「女性の健康相談員(仮名称)」を育成する基盤を構築することとした。

研究方法

平成27年度に女性の健康についての情報収集・発信体制の基盤となるHPを作成して以来、平成28~29年度にわたり、本研究のプラットフォームであるHPの内容改善、セッション数およびページビューPVをあげるためのいわゆるSEO対策(Search Engine Optimization: 検索結果で自らのサイトを多く露出するために行

う対策)を行った。HPにアクセスする人々の属性を調べる上で、リリースされてから現在に至るまでの年齢層、アクセス端末の種類、セッション数、PV数、よくアクセスされる記事に関する検討を行った。解析に関してはグーグルアナリティクスが用いられた。これらアクセスに関する情報は機器そのものから得られる属性だけであるため、個人情報を含まないことから倫理面に関して問題点はない。

本HPをみた一般人の行動変容について本HPをみて情報提供を受けた人々が、実際に受診に結びつく行動をとるか、または周囲の症状を持つ人に対して受診を促すような態度をとるかなど、行動変容をとるかどうかがHPの意義をみる上で重要なものとなる。具体的には、HPを閲覧する前後でアンケート調査を行うことにより、ホームページをみた女性の行動変容を解析する。アンケートの中心は、ヘルスリテラシー尺度である性成熟期女性のヘルスリテラシー尺度、HLS-EU-Q47日本語版に基づいた。また、同時にメンタルヘルスの測定尺度であるMHI-5(Mental Health Inventory-5)も測定することで、メンタルヘルスが不良であったために行動変容に至らなかった事象の頻度を解析した。

広く女性の疾患予防、健康増進を相談するためには“女性の健康”という視点からみて統一された窓口が必要である。他診療従事者間での情報共有を促進するためおよび女性の健康相談員の教育目的のためガイドブックとeラーニングシステムの作成に着手した。日本産科婦人科学会の女性のヘルスケアアドバイザー養成プログラムを活用し、本研究では、その内容をさらに改変、拡大することにより看護師、保健師、その他の健康支援関係者などが女性のヘルスケアアドバイザーとして活躍できるように養成するだけでなく、医療知識の更新をも目標としてeラーニングシステムを構築することで、女性の健康増進・向上に役立てることとした。

研究報告

1) 女性を対象とした情報提供HPとそのアクセス内容に関する研究

本ホームページHPは世代ごとに体系的に分

類された記事が必要である点を重視し、思春期から老年期に至るまでの女性の健康に関する記事を網羅するためライフステージ別女性の健康ガイドという大項目から、小児期・思春期、成人期、更年期、老年期、妊娠・出産、という小項目を作成した。モバイル端末で見やすいことを最優先にレイアウトを考え、比較的曖昧なキーワードでも求める記事が検索できるような体系にした。

1) - 1 小児期・思春期

導線として以下の見出しを配置した。内容は随時更新されている。

- みんな悩んでる 月経のトラブル
- 女性に多い からだの不快感と病気
- 人に相談しにくい デリケートな悩み
- これって大丈夫? 小児期の気ばかり
- こどもからおとなへ 思春期って何
- 思春期に多い からだの不快感と病気
- ひとりで悩まない 思春期の性と健康

1) - 2 成人期

性成熟期においては月経周期が確立するとともに月経困難、月経不順に代表されるようなトラブルが多くみられることから導線として以下の見出しを配置した。成人期の悩みとして重要なものとして乳癌が挙げられるが、乳癌のセルフチェックが導入されただけでなく、SLEに関連する内容が専門医に監修してもらい更新されるなど、内容は随時更新されている。

- みんな悩んでる 月経のトラブル
- 女性に多い からだの不快感と病気
- 人に相談しにくい デリケートな悩み

1) - 3 更年期

周閉経期以降老年期に至るまでで女性において特有にみられる疾患とその背景、対策などに重点をおいて導線として以下の見出しを配置した。内容は随時更新されている。

- 女性に多い からだの不快感と病気
- 更年期を取り巻く状況と治療法 すっきり不安解消

- 早めの相談がカギ 更年期に多い症状と病気

1) - 4 老年期

老年期においては、介護の問題、フレイル、認知症の問題が取り上げられ、導線として以下の見出しを配置した。老年期の悩みとして重要なものとして認知症が挙げられるが、認知症に関してはセルフチェックを導入する予定であり、それも含め内容は随時更新されている。

- 女性に多い からだの不快感な症状と病気
- 家族で考えたい 老年期の悩み

1) - 5 妊娠・出産

働く女性の妊娠・出産を援助するだけでなく、望まない妊娠を避けるという観点からも記事を作成し、導線として以下の見出しを配置した。内容は随時更新されている。

- 早めの準備が大切 妊娠・出産のこと

1) - 6 その他

上記の記事以外にも子宮頸がん、子宮体がんを代表とした婦人科悪性腫瘍については、疫学的背景、健康診断の重要性、ワクチンなどの情報も含めて情報提供をしており、女性において頻度の多い乳がんなどについても記事を準備した。

病気の早期発見・対応を！

女性の検診とワクチン

- 検診の意義と活用
- 乳がん検診
- 女性に多い疾患の検診
- 女性ヘルスケアと予防接種

また SEO 対策として新規記事をアップし続けることが一番肝心であるため、料理のレシピ記載に加え、従来からアクセス成績の良かったセルフチェックの内容を更に拡充させていった。セルフチェックについては以下のような項目を設けている。アクセス成績を反映しており、子宮内膜症など女性の健康に関連した病気のセルフチェック記事へのアクセスが現在でも首位である。

これって病気かな？

女性の病気セルフチェック

子宮頸がんチェック

子宮体がんチェック

乳がんチェック

子宮内膜症チェック

子宮筋腫チェック

生理痛チェック

月経前症候群 (PMS) / 月経前不快気分障害

(PMDD) チェック

不妊症チェック

性行為感染症チェック

更年期障害チェック

過活動膀胱チェック

うつ症状チェック

不眠症チェック

これら情報を提供するための基盤として基礎的研究もおこなっており、当科で提出された論文において新規に判明したものが HP の記事内容にも反映されている。

1) - 7 ホームページにアクセスする対象者に関する解析

2016 年 3 月に HP が開設されて以来、2018 年 3 月末日までの HP へのアクセスに関するデータを解析した内容を以下に示す。

ユーザー属性：年齢別ユーザー割合

昨今ではインターネットを用いて情報収集がおこなわれることが多い。実際、平成 29 年の学会報告に用いたデータにおいても (第 69 回日本産科婦人科学会 宮川ら) 18 ~ 24 歳 (23%)、25 ~ 34 歳 (33%)、35 ~ 44 歳 (27%) での総計がアクセスする人々の大半を占めることが分かるが、65 歳以上は全体のわずか 2% にすぎない。また情報にアクセスする手法としては、圧倒的にモバイル端末・スマートフォンである。一定数 PC からのアクセスもあるが、情報提供基盤としてはスマートフォンを使うことが最も適切と考えられた。

研究期間内に HP を訪問した人数

一定期間に本 HP を訪問した延べ人数は、基本的に緩徐に時間の経過とともに増加してきおり、最新のデータでは 68816 名 (2018 年 3 月) であった。新規ユーザーは、一定期間に HP を

訪問する人数とほぼ平行したような推移となっている。年代とともに健康に関する問題は変化していくというのがライフコースアプローチの考え方なので、本当はリピーターが増えてくれることが、新規ユーザー獲得のためにも極めて重要である。平成 29 年度に入って各種医療を扱うサイトの信憑性が問われる時代となり、医療コンテンツに信憑性がないものは淘汰される時代になってきている。本サイトは他のパラメーターにおいても平成 29 年度に著しい伸びを示したことから、世間において一定の評価を得たものと推測できる。その一方、新規セッション率(ある一定期間で、そのサイトに初めて訪問したユーザーの全体のセッションに対する割合のこと)は概ね 90% 近くで高止まりしているため、初めて HP を訪問したものが、記事内容が面白いために長い間 HP 上に留まった上で情報収集をしてもらう、という行動がこの HP の最終目標であることから、サイトに滞留させるための引き続きの努力が必要であることが示された。

セッション数と PV 数

本 HP 内容が興味深く、色々なページを覗くという行動が発生するとセッション数(ユーザーがアクセスした回数)が増えるため、ユーザー数が 2018 年 3 月現在 68816、セッション数が 71855 ということは、以前より改善はされたものの、個人がその月間内に本 HP を再訪することが多くないことを意味する。また、PV 数(サイト内のページが表示された回数)は 2018 年 3 月段階で 274264 回であるが、PV 数だけでいえば平成 28 年度末のそれより 5 倍近い伸びを示した。この点については著しい改善があり、新記事投入の影響などが大きく寄与しているものと推測できる。しかし、ページ数/セッション数つまりユーザーの行動様式の指標は平成 28 年度末の 5 前後だったものが、平成 29 年度末には約 4 に低下している。本 HP を見始めて、4 ページ前後を閲覧した後ユーザーはサイトを離脱することを意味するため、情報を隈なく提供するという観点から言ってもサイトを長時間回遊させることが大きな目標である。これはある程度内容を循環させるための導線を引くことで対応したい。

2) ホームページを利用したアンケート研究

本ホームページを見た後に、健康を維持するための行動がどのように変容するかについてアンケートを取ることが研究の主目的の一つである。アンケートに関しては、東京大学大学院医学系研究科・医学部の研究倫理審査委員会において承認を受けて、個人情報保護、生命倫理・安全対策といった点について十分な講習を受け、法令・規則を遵守するようにした。平成 29 年 1 月に倫理審査が通り、株式会社エムティアイのアプリ「ルナルナ」のユーザー 2000 名を目標として臨床研究のアンケートが始まった。

月経周期管理アプリ「ルナルナ」の利用者である 10~40 歳代女性 2600 人を対象とし、本 HP で医療情報を入手したことにより、受診行動に至るなどの行動変容に関して 1 回目の Web アンケート調査を行った。対象者を半数ずつ 2 群に分け、片方のみ HP を閲覧するよう誘導した。その後、両群に再度 1 回目と同じ Web アンケート調査を行い、その結果を解析した。

アンケート内容は、ヘルスリテラシー尺度である『性成熟期のヘルスリテラシー尺度 1』(4 カテゴリー、21 項目)、『HLS-EU-Q472』(12 カテゴリー、47 項目)に加え、メンタルヘルスの評価尺度である『MHI-53』(5 項目)の計 73 項目の質問を使用した。尚、MHI-5 の得点で「うつ」の可能性が高いとされる閾値は 52 点以下とされており、メンタルヘルスの状態が行動変容に影響する可能性も同時に検討するため、HP 閲覧誘導あり群と誘導なし群の両群を MHI-5 の得点により更に 2 群に分割した。各アンケート項目またはカテゴリーにおいて、本 HP 閲覧による明らかな得点の改善は認められなかった。原因として、アンケート項目の多さのため途中離脱者が増加し最終的な対象者が開始時の 14% まで減少したこと、HP 閲覧誘導は行ったが、閲覧する項目の指定は行わなかったこと、本 HP 以外にも医療情報を提供するサイトが多数存在し、閲覧誘導なし群においても医療知識を得る機会があった可能性があること、本 HP で正しい医療知識を得たことにより逆に自己評価が低下した可能性、これまでのアクセスランキングで上位

となっているコンテンツの内容を反映した質問項目が少なかったこと、などが挙げられる。

3)多診療科連携による女性の診療ガイドブックの作成

多種多様な女性の健康が問題はその多くが産婦人科学の範疇に属するが、女性特有の内科的、小児科的、整形外科的および精神科的問題も存在する。これからの統合的な女性診療を構築する上での基盤となるモデルと指針を作成する必要があった。女性診療をおこなう上で、本邦および海外においてもそもそもガイドラインは存在しないことから指針を作ることが最優先課題とされ、女性にみられる諸問題に関する診療ガイドブックを作成することとした。

項目	著者
1. 原発性または続発性無月経、月経不順の適切な対応と診察上の留意点	平池 修
2. 摂食障害に対する適切な対応	鈴木真理
3. 月経困難症、生理痛、頭痛	平野 茉来
4. 思春期早発	伊藤純子
5. 女性の貧血、過多月経の適切な対応と診察上の留意点	秋野なな
6. 内科関連疾患などの合併症のある不妊症患者および妊婦への対応	谷垣伸治ら
7. 避妊（内科などでのピルの処方）	宮川理華子
8. 月経前症候群・月経前不快気分障害	宮川理華子
9. 日常診療で遭遇しうる若年女性の性感染症	本城晴紀
10. 血管運動神経症状（更年期症状との鑑別）	秋下雅弘
11. 不眠・うつ	市橋香代
12. 腰痛関連	田中 栄
13. 排尿関連症状（尿意切迫、排尿困難、尿失禁など）	関口由紀
14. 認知症関連症状（内科以外での注意点、ファーストエイド）	市橋香代
15. 外陰掻痒・性器萎縮	対馬ルリ子
16. 動脈硬化症に関連した症状	山田容子
17. 性暴力被害	小野陽子

女性の健康支援のための教育プログラムは既に校了しており、発刊とHP上での配布をおこ

なう予定である。

4)健康支援教育プログラム等の作成と健康相談員の養成を目的としたeラーニングシステムを構築する目的で、日本産科婦人科学会の協力のもと、思春期から更年期・老年期まで一生を通じた女性のヘルスケアアドバイザーを養成するための資料を得た。それらをさらに改変、内容を拡大することにより看護師、保健師、その他の健康支援関係者などが女性のヘルスケアアドバイザーとして活躍できるようにし、女性の健康増進・向上に役立てることとした。テストページの設置は完了し、現在供覧できる状態である。テストページは以下の手順でログイン出来る。

フロントページ

URL：http://w-health.jp/elearning/front/user/login
上記アクセス後、IDとPASSを求められるので、ログイン画面で下記を入力してログイン

ID：958371

PASS：testtest

項目は以下ようになっており、女性の健康の知識を習得するために幅広い内容となっている。現在これらについては、テスト問題を設定するなどして、より本番のものに近いように調整をしている。

Eラーニング項目リスト	著者
OC/LEPの使い方（子宮内膜症含）	百枝 幹雄
ホルモン療法と動静脈血栓症の管理	岡野 浩哉
性同一性障害の診断と治療	中塚 幹也
思春期の問題行動（リストカット・依存症を中心に）	松本 俊彦
ウイメンズ・ヘルスのニーズと日本の現状/ワークショップ「婦人科の敷居を下げる10か条」	対馬 ルリ子
女性に多い他科疾患	村島 温子
性機能障害	大川 玲子
リプロダクティブ・ヘルス/ライツと安全な中絶	木村 正
女性の排尿障害	関口 由紀
女性のメンタルヘルス	加茂 登志子
女性アスリートの健康	能瀬 さやか
更年期障害・HRTとトータルヘルス	小川 真里子

ケア	
思春期発来異常・原発性無月経の診断と管理	久具 宏司
加齢と妊孕性	齊藤 英和
女性のキャリア形成・維持とダイバーシティ	久保 光司
女性の貧困と暴力の連鎖	横田 千代子
性暴力・性虐待への対応	加藤 治子
ジェンダー/ジェンダーバイアス	吉野 一枝
ドメスティック・バイオレンスとその対応	種部 恭子
思春期の月経異常の診断と治療	甲村 弘子
女性に多い愁訴と漢方治療	谷川 聖明
性教育・健康教育の重要ポイント	上村 茂仁
女性の健康向上を阻む社会的圧力	河野 美代子

D. 考察

女性の健康の包括的支援に関する情報提供を効率的に行うためのホームページの作成により、確固たる情報を提供する基盤は整った。また、ここには医学的な情報だけではなく、行政の支援体制、法律的な問題など広範な内容を含ませるようにして、今後の我が国において“女性の健康”の概念を普及させていく上での有用なツールとする予定である。今後、統合的な女性診療の健康評価・健診のための指針を作成することにより、女性の一生を通じた健康支援への多くの医師の参加が促進することと、本研究により女性の健康の包括的支援のための相談体制が充実する。このホームページではリンク機能も活用して各種の“女性の健康”に関する情報を統合するだけでなく、e-learning 機能、アンケート機能など多彩な機能を持たせ、後に記載する相談支援体制などにおいても双方向性のツールとして活用できるものとする。また本サイトはアクセス記録などを追跡することが可能であるため、毎月のアクセス記録から、受け手のニーズを拾い上げて、改善に繋げる作業を持続的に行なう予定である。今回の検討では、本 HP の行動変容に関する有用性を示すには至らなかったが、本 HP へのアクセス数の継続的な増加など、医療者からインターネットを通じた医療情報の提供は一定の効果はあると考えられる。今後より利用者のニーズを反映し

たコンテンツを定期的に提供していくことが重要と考えられた。また、一般向けの記事と、医療従事者、女性の健康相談員（仮称）全てに満足が得られるようなサイトにするためには、継続的な記事の更新が必要と考える。

E. 結論

女性の健康包括的支援を最終的な目標とし、健康維持に関する HP を作成したため、信頼に足る確固たる情報を提供する基盤は整った。従来の女性の健康は、とかく産婦人科に属する情報のみに限定されていたり、女医が女性の立場に立って診察を入念におこなうことのみにより達成可能であるという概念が流布していたが、我々が本研究内で強調しているように、確固たるソースと事実に基づいた情報を提供し、医学的介入が必要な女性に対し適切な医療とアドバイスを提供することがまずは重要である。それが達成できれば、適切な医療介入が円滑に進み、女性を活用・登用した経済活動がますます促進されるものと見込まれる。今後、統合的な女性診療の健康評価・健診のためのガイドブックを作成することにより、女性の一生を通じた健康支援への多くの医師だけでなく医療従事者の参加も促進されるものと考えられる。ホームページを基盤とした健康相談員の育成が行われるようになれば、女性の健康の包括的支援のための相談体制が確保される。本 HP は図 3～15 に示してあるように、アクセスする人物像、アクセス記録などを経時的に追跡することが可能であるため、毎月のアクセス記録から、受け手のニーズを可能な限り拾い上げるようにしている。このホームページでは、各種“女性の健康”に関する情報を統合するだけでなく、e-learning 機能、アンケート機能など多彩な機能を持たせることを次の目標としている。最終的には大規模データベースの検討や具体的ニーズの拾い上げが大規模化することを期待しており、それで得られる情報をもとに、実行可能な「多診療科連携モデル」が構築され、日本全体の女性医療の水準を上げ、医療法整備、経済活動への展開という循環が進むことを期待している。

F. 健康危険情報
特になし

G.研究発表 (2016/4/1~2017/3/31 発表)

1.論文発表

[雑誌]

1. Low Bone Mineral Density in Elite Female Athletes With a History of econdary Amenorrhea in Their Teens. Nose-Ogura S, Yoshino O, Dohi M, Kigawa M, Harada M, Kawahara T, Osuga Y, Saito S. Clin J Sport Med. 2018 Mar 27.
2. The three peaks in age distribution of females with pneumothorax: a nationwide database study in Japan. Hiyama N, Sasabuchi Y, Jo T, Hirata T, Osuga Y, Nakajima J, Yasunaga H. Eur J Cardiothorac Surg. 2018 Mar 27. doi: 10.1093/ejcts/ezy081.
3. Therapeutic significance of targeting survivin in cervical cancer and possibility of combination therapy with TRAIL. Nakamura H, Taguchi A, Kawana K, Baba S, Kawata A, Yoshida M, Fujimoto A, Ogishima J, Sato M, Inoue T, Nishida H, Furuya H, Yamashita A, Eguchi S, Tomio K, Mori-Uchino M, Adachi K, Arimoto T, Wada-Hiraike O, Oda K, Nagamatsu T, Osuga Y, Fujii T. Oncotarget. 2018 Feb 5;9(17):13451-13461. doi: 10.18632/oncotarget.24413. eCollection 2018 Mar 2.
4. Fertility preservation for female cancer patients. Harada M, Osuga Y. Int J Clin Oncol. 2018 Mar 3. doi: 10.1007/s10147-018-1252-0.
5. Detachment from the primary site and suspension in ascites as the initial step in metabolic reprogramming and metastasis to the omentum in ovarian cancer. Sato M, Kawana K, Adachi K, Fujimoto A, Yoshida M, Nakamura H, Nishida H, Inoue T, Taguchi A, Ogishima J, Eguchi S, Yamashita A, Tomio K, Komatsu A, Wada-Hiraike O, Oda K, Nagamatsu T, Osuga Y, Fujii T. Oncol Lett. 2018 Jan;15(1):1357-1361. doi: 10.3892/ol.2017.7388. Epub 2017 Nov 9.
6. Impact of Th1/Th2 cytokine polarity induced by invariant NKT cells on the incidence of pregnancy loss in mice. Hoya M, Nagamatsu T, Fujii T, Schust DJ, Oda H, Akiba N, Iriyama T, Kawana K, Osuga Y, Fujii T. Am J Reprod Immunol. 2018 Mar;79(3). doi: 10.1111/aji.12813. Epub 2018 Jan 24.
7. Involvement of immune cells in the pathogenesis of endometriosis. Izumi G, Koga K, Takamura M, Makabe T, Satake E, Takeuchi A, Taguchi A, Urata Y, Fujii T, Osuga Y. J Obstet Gynaecol Res. 2018 Feb;44(2):191-198. doi: 10.1111/jog.13559. Epub 2018 Jan 5.
8. [Impact of estrogen signaling in energy expenditure and metabolism.] Hiraike O, Osuga Y. Clin Calcium. 2018;28(1):93-101. doi: CliCa180193101. Japanese.
9. Administration of Oral Contraceptives Could Alleviate Age-Related Fertility Decline Possibly by Preventing Ovarian Damage in a Mouse Model. Isono W, Wada-Hiraike O, Kawamura Y, Fujii T, Osuga Y, Kurihara H. Reprod Sci. 2017 Jan 1:1933719117746758. doi: 10.1177/1933719117746758. [Epub ahead of print]
10. Polycystic Ovarian Morphology may be a Positive Prognostic Factor in Patients with Endometrial Cancer who Achieved Complete Remission after Fertility-Sparing Therapy with Progestin. Fukui Y, Taguchi A, Adachi K, Sato M, Kawata A, Tanikawa M, Sone K, Mori M, Nagasaka K, Matsumoto Y, Arimoto T, Oda K, Osuga Y, Fujii T. Asian Pac J Cancer Prev. 2017 Nov 26;18(11):3111-3116.
11. Development of endometrioma after cervical conization. Takahashi N, Koga K, Arakawa I, Harada M, Oda K, Kawana K, Fujii T, Osuga Y. Gynecol Endocrinol. 2018 Apr;34(4):341-344. doi:

- 10.1080/09513590.2017.1393660. Epub 2017 Oct 26.
12. Bradykinin system is involved in endometriosis-related pain through endothelin-1 production. Yoshino O, Yamada-Nomoto K, Kobayashi M, Andoh T, Hongo M, Ono Y, Hasegawa-Idemitsu A, Sakai A, Osuga Y, Saito S. *Eur J Pain*. 2018 Mar;22(3):501-510. doi: 10.1002/ejp.1133. Epub 2017 Oct 16.
 13. Activation of Nrf2 might reduce oxidative stress in human granulosa cells. Akino N, Wada-Hiraike O, Terao H, Honjoh H, Isono W, Fu H, Hirano M, Miyamoto Y, Tanikawa M, Harada M, Hirata T, Hirota Y, Koga K, Oda K, Kawana K, Fujii T, Osuga Y. *Mol Cell Endocrinol*. 2017 Oct 4. pii: S0303-7207(17)30522-1.
 14. Bevacizumab-Related Microvascular Angina and Its Management with Nicorandil. Katoh M, Takeda N, Arimoto T, Abe H, Oda K, Osuga Y, Fujii T, Komuro I. *Int Heart J*. 2017 Oct 21;58(5):803-805. doi: 10.1536/ihj.16-537. Epub 2017 Sep 30.
 15. Enhanced HIF2 α expression during human trophoblast differentiation into syncytiotrophoblast suppresses transcription of placental growth factor. Fujii T, Nagamatsu T, Morita K, Schust DJ, Iriyama T, Komatsu A, Osuga Y, Fujii T. *Sci Rep*. 2017 Sep 29;7(1):12455. doi: 10.1038/s41598-017-12685-w.
 16. Evaluation of the efficacy and safety of dienogest in the treatment of painful symptoms in patients with adenomyosis: a randomized, double-blind, multicenter, placebo-controlled study. Osuga Y, Fujimoto-Okabe H, Hagino A. *Fertil Steril*. 2017 Oct;108(4):673-678. doi: 10.1016/j.fertnstert.2017.07.021. Epub 2017 Sep 11.
 17. Activation of Endoplasmic Reticulum Stress in Granulosa Cells from Patients with Polycystic Ovary Syndrome Contributes to Ovarian Fibrosis. Takahashi N, Harada M, Hirota Y, Nose E, Azhary JM, Koike H, Kunitomi C, Yoshino O, Izumi G, Hirata T, Koga K, Wada-Hiraike O, Chang RJ, Shimasaki S, Fujii T, Osuga Y. *Sci Rep*. 2017 Sep 7;7(1):10824. doi: 10.1038/s41598-017-11252-7.
 18. Nomenclature of primary amenorrhea: A proposal document of the Japan Society of Obstetrics and Gynecology committee for the redefinition of primary amenorrhea. Shozu M, Ishikawa H, Horikawa R, Sakakibara H, Izumi SI, Ohba T, Hirota Y, Ogata T, Osuga Y, Kugu K. *J Obstet Gynaecol Res*. 2017 Nov;43(11):1738-1742. doi: 10.1111/jog.13442. Epub 2017 Aug 17.
 19. Authors' reply re: Peripartum type B aortic dissection in patients with Marfan syndrome who underwent aortic root replacement: a case series study. Sayama S, Takeda N, Iriyama T, Inuzuka R, Maemura S, Fujita D, Yamauchi H, Nawata K, Bougaki M, Hyodo H, Shitara R, Nakayama T, Komatsu A, Nagamatsu T, Osuga Y, Fujii T. *BJOG*. 2018 Mar;125(4):502-503. doi: 10.1111/1471-0528.14778. Epub 2017 Aug 10.
 20. Long-term use of dienogest in the treatment of painful symptoms in adenomyosis. Osuga Y, Watanabe M, Hagino A. *J Obstet Gynaecol Res*. 2017 Sep;43(9):1441-1448. doi: 10.1111/jog.13406. Epub 2017 Jul 24.
 21. Evaluation of the treatment patterns and economic burden of dysmenorrhea in Japanese women, using a claims database. Akiyama S, Tanaka E, Cristeau O, Onishi Y, Osuga Y. *Clinicoecon Outcomes Res*. 2017 May 22;9:295-306. doi: 10.2147/CEOR.S127760. eCollection 2017.
 22. Labor prediction based on the expression patterns of multiple genes related to cervical maturation in human term pregnancy. Samejima T, Nagamatsu T, Schust DJ, Iriyama T, Sayama S, Sonoda M, Komatsu A, Kawana K, Osuga Y, Fujii T. *Am J Reprod*

- Immunol. 2017 Nov;78(5). doi: 10.1111/aji.12711. Epub 2017 May 30.
23. F4/80+ Macrophages Contribute to Clearance of Senescent Cells in the Mouse Postpartum Uterus. Egashira M, Hirota Y, Shimizu-Hirota R, Saito-Fujita T, Haraguchi H, Matsumoto L, Matsuo M, Hiraoka T, Tanaka T, Akaeda S, Takehisa C, Saito-Kanatani M, Maeda KI, Fujii T, Osuga Y. *Endocrinology*. 2017 Jul 1;158(7):2344-2353. doi: 10.1210/en.2016-1886.
 24. Recent advances in targeting DNA repair pathways for the treatment of ovarian cancer and their clinical relevance. Oda K, Tanikawa M, Sone K, Mori-Uchino M, Osuga Y, Fujii T. *Int J Clin Oncol*. 2017 Aug;22(4):611-618. doi: 10.1007/s10147-017-1137-7. Epub 2017 May 15. Review.
 25. Oil-Soluble Contrast Medium (OSCM) for Hysterosalpingography Modulates Dendritic Cell and Regulatory T Cell Profiles in the Peritoneal Cavity: A Possible Mechanism by Which OSCM Enhances Fertility. Izumi G, Koga K, Takamura M, Bo W, Nagai M, Miyashita M, Harada M, Hirata T, Hirota Y, Yoshino O, Fujii T, Osuga Y. *J Immunol*. 2017 Jun 1;198(11):4277-4284. doi: 10.4049/jimmunol.1600498. Epub 2017 Apr 28.
 26. Intracellular signaling entropy can be a biomarker for predicting the development of cervical intraepithelial neoplasia. Sato M, Kawana K, Adachi K, Fujimoto A, Yoshida M, Nakamura H, Nishida H, Inoue T, Taguchi A, Ogishima J, Eguchi S, Yamashita A, Tomio K, Wada-Hiraike O, Oda K, Nagamatsu T, Osuga Y, Fujii T. *PLoS One*. 2017 Apr 28;12(4):e0176353. doi: 10.1371/journal.pone.0176353. eCollection 2017.
 27. Oncogenic histone methyltransferase EZH2: A novel prognostic marker with therapeutic potential in endometrial cancer. Oki S, Sone K, Oda K, Hamamoto R, Ikemura M, Maeda D, Takeuchi M, Tanikawa M, Mori-Uchino M, Nagasaka K, Miyasaka A, Kashiyama T, Ikeda Y, Arimoto T, Kuramoto H, Wada-Hiraike O, Kawana K, Fukayama M, Osuga Y, Fujii T. *Oncotarget*. 2017 Jun 20;8(25):40402-40411. doi: 10.18632/oncotarget.16316
 28. Regeneration of cervical reserve cell-like cells from human induced pluripotent stem cells (iPSCs): A new approach to finding targets for cervical cancer stem cell treatment. Sato M, Kawana K, Adachi K, Fujimoto A, Yoshida M, Nakamura H, Nishida H, Inoue T, Taguchi A, Ogishima J, Eguchi S, Yamashita A, Tomio K, Wada-Hiraike O, Oda K, Nagamatsu T, Osuga Y, Fujii T. *Oncotarget*. 2017 Jun 20;8(25):40935-40945. doi: 10.18632/oncotarget.16783.
 29. PAI-1 in granulosa cells is suppressed directly by statin and indirectly by suppressing TGF- β and TNF- α in mononuclear cells by insulin-sensitizing drugs. Yamada-Nomoto K, Yoshino O, Akiyama I, Iwase A, Ono Y, Nakamura T, Harada M, Nakashima A, Shima T, Ushijima A, Osuga Y, Chang RJ, Shimasaki S, Saito S. *Am J Reprod Immunol*. 2017 Jul;78(1). doi: 10.1111/aji.12669. Epub 2017 Mar 24.
 30. Peripartum type B aortic dissection in patients with Marfan syndrome who underwent aortic root replacement: a case series study. Sayama S, Takeda N, Iriyama T, Inuzuka R, Maemura S, Fujita D, Yamauchi H, Nawata K, Bougaki M, Hyodo H, Shitara R, Nakayama T, Komatsu A, Nagamatsu T, Osuga Y, Fujii T. *BJOG*. 2018 Mar;125(4):487-493. doi: 10.1111/1471-0528.14635. Epub 2017 May 2.
 31. Targeting glutamine metabolism and the focal adhesion kinase additively inhibits the mammalian target of the rapamycin pathway in spheroid cancer stem-like properties of

- ovarian clear cell carcinoma in vitro. Sato M, Kawana K, Adachi K, Fujimoto A, Yoshida M, Nakamura H, Nishida H, Inoue T, Taguchi A, Ogishima J, Eguchi S, Yamashita A, Tomio K, Wada-Hiraike O, Oda K, Nagamatsu T, Osuga Y, Fujii T. *Int J Oncol*. 2017 Apr;50(4):1431-1438. doi: 10.3892/ijo.2017.3891. Epub 2017 Feb 23.
32. A case of a surviving co-twin diagnosed with porencephaly and renal hypoplasia after a single intrauterine fetal death at 21 weeks of gestation in a monochorionic monoamniotic twin pregnancy. Machino H, Iriyama T, Nakayama T, Komatsu A, Nagamatsu T, Osuga Y, Fujii T. *Oxf Med Case Reports*. 2017 Jan 17;2017(1):omw096. doi: 10.1093/omcr/omw096.
 33. Low uptake of fluorodeoxyglucose in positron emission tomography/computed tomography in ovarian clear cell carcinoma may reflect glutaminolysis of its cancer stem cell-like properties. Sato M, Kawana K, Adachi K, Fujimoto A, Taguchi A, Fujikawa T, Yoshida M, Nakamura H, Nishida H, Inoue T, Ogishima J, Eguchi S, Yamashita A, Tomio K, Arimoto T, Wada-Hiraike O, Oda K, Nagamatsu T, Osuga Y, Fujii T. *Oncol Rep*. 2017 Mar;37(3):1883-1888. doi: 10.3892/or.2017.5398.
 34. Adenomyosis and adverse perinatal outcomes: increased risk of second trimester miscarriage, preeclampsia, and placental malposition. Hashimoto A, Iriyama T, Sayama S, Nakayama T, Komatsu A, Miyauchi A, Nishii O, Nagamatsu T, Osuga Y, Fujii T. *J Matern Fetal Neonatal Med*. 2017 Feb 9:1-6. doi: 10.1080/14767058.2017.1285895.
 35. Drospirenone reduces inflammatory cytokines, vascular endothelial growth factor (VEGF) and nerve growth factor (NGF) expression in human endometriotic stromal cells. Makabe T, Koga K, Miyashita M, Takeuchi A, Sue F, Taguchi A, Urata Y, Izumi G, Takamura M, Harada M, Hirata T, Hirota Y, Wada-Hiraike O, Fujii T, Osuga Y. *J Reprod Immunol*. 2017 Feb;119:44-48. doi: 10.1016/j.jri.2016.12.002.
 36. Expression of Par3 polarity protein correlates with poor prognosis in ovarian cancer. Nakamura H, Nagasaka K, Kawana K, Taguchi A, Uehara Y, Yoshida M, Sato M, Nishida H, Fujimoto A, Inoue T, Adachi K, Nagamatsu T, Arimoto T, Oda K, Osuga Y, Fujii T. *BMC Cancer*. 2016 Nov 17;16(1):897.
 37. STAT3 activity regulates sensitivity to tumor necrosis factor-related apoptosis-inducing ligand-induced apoptosis in cervical cancer cells. Nakamura H, Taguchi A, Kawana K, Kawata A, Yoshida M, Fujimoto A, Ogishima J, Sato M, Inoue T, Nishida H, Furuya H, Tomio K, Eguchi S, Mori-Uchino M, Yamashita A, Adachi K, Arimoto T, Wada-Hiraike O, Oda K, Nagamatsu T, Osuga Y, Fujii T. *Int J Oncol*. 2016 Nov;49(5):2155-2162. doi: 10.3892/ijo.2016.3681.
 38. MDM2 is a potential therapeutic target and prognostic factor for ovarian clear cell carcinomas with wild type TP53. Makii C, Oda K, Ikeda Y, Sone K, Hasegawa K, Uehara Y, Nishijima A, Asada K, Koso T, Fukuda T, Inaba K, Oki S, Machino H, Kojima M, Kashiyama T, Mori-Uchino M, Arimoto T, Wada-Hiraike O, Kawana K, Yano T, Fujiwara K, Aburatani H, Osuga Y, Fujii T. *Oncotarget*. 2016 Nov 15;7(46):75328-75338. doi: 10.18632/oncotarget.12175.
 39. Autophagy inhibition augments resveratrol-induced apoptosis in Ishikawa endometrial cancer cells. Fukuda T, Oda K, Wada-Hiraike O, Sone K, Inaba K, Ikeda Y, Makii C, Miyasaka A, Kashiyama T, Tanikawa M, Arimoto T, Yano T, Kawana K, Osuga Y, Fujii T. *Oncol Lett*. 2016 Oct;12(4):2560-2566.
 40. Cancer-associated fibroblast suppresses killing activity of natural killer cells through downregulation of poliovirus receptor (PVR/CD155), a ligand of activating NK

- receptor. Inoue T, Adachi K, Kawana K, Taguchi A, Nagamatsu T, Fujimoto A, Tomio K, Yamashita A, Eguchi S, Nishida H, Nakamura H, Sato M, Yoshida M, Arimoto T, Wada-Hiraike O, Oda K, Osuga Y, [Fujii T](#). *Int J Oncol*. 2016 Oct;49(4):1297-304. doi: 10.3892/ijo.2016.3631.
41. Modification of the Tumor Microenvironment in KRAS or c-MYC-Induced Ovarian Cancer-Associated Peritonitis. Yoshida M, Taguchi A, Kawana K, Adachi K, Kawata A, Ogishima J, Nakamura H, Fujimoto A, Sato M, Inoue T, Nishida H, Furuya H, Tomio K, Arimoto T, Koga K, Wada-Hiraike O, Oda K, Nagamatsu T, Kiyono T, Osuga Y, [Fujii T](#). *PLoS One*. 2016 Aug 2;11(8):e0160330. doi: 10.1371/journal.pone.0160330.
 42. A case of lymphangioliomyomatosis associated with endometrial cancer and severe systemic lupus erythematosus. Suzuki K, Nagasaka K, Oda K, Abe H, Maeda D, Matsumoto Y, Arimoto T, Kawana K, Fukayama M, Osuga Y, [Fujii T](#). *BMC Cancer*. 2016 Jul 4;16:390. doi: 10.1186/s12885-016-2413-z.
 43. Inhibition of endoplasmic reticulum (ER) stress sensors sensitizes cancer stem-like cells to ER stress-mediated apoptosis. Fujimoto A, Kawana K, Taguchi A, Adachi K, Sato M, Nakamura H, Ogishima J, Yoshida M, Inoue T, Nishida H, Tomio K, Yamashita A, Matsumoto Y, Arimoto T, Wada-Hiraike O, Oda K, Nagamatsu T, Osuga Y, [Fujii T](#). *Oncotarget*. 2016 Aug 9;7(32):51854-51864. doi: 10.18632/oncotarget.10126.
 44. The Emerging Role of FOXL2 in Regulating the Transcriptional Activation Function of Estrogen Receptor β : An Insight Into Ovarian Folliculogenesis. Hirano M, Wada-Hiraike O, Fu H, Akino N, Isono W, Sakurabashi A, Fukuda T, Morita Y, Tanikawa M, Miyamoto Y, Nishi Y, Yanase T, Harada M, Oishi H, Yano T, Koga K, Oda K, Kawana K, [Fujii T](#), Osuga Y. *Reprod Sci*. 2016 Jun 1. pii: 1933719116651150.
 45. Spheroid cancer stem cells display reprogrammed metabolism and obtain energy by actively running the tricarboxylic acid (TCA) cycle. Sato M, Kawana K, Adachi K, Fujimoto A, Yoshida M, Nakamura H, Nishida H, Inoue T, Taguchi A, Takahashi J, Eguchi S, Yamashita A, Tomio K, Wada-Hiraike O, Oda K, Nagamatsu T, Osuga Y, [Fujii T](#). *Oncotarget*. 2016 May 31;7(22):33297-305. doi: 10.18632/oncotarget.8947.
 46. Synergistic antitumor effects of combination PI3K/mTOR and MEK inhibition (SAR245409 and pimasertib) in mucinous ovarian carcinoma cells by fluorescence resonance energy transfer imaging. Inaba K, Oda K, Aoki K, Sone K, Ikeda Y, Miyasaka A, Kashiyama T, Fukuda T, Makii C, Arimoto T, Wada-Hiraike O, Kawana K, Yano T, Osuga Y, [Fujii T](#). *Oncotarget*. 2016 May 17;7(20):29577-91. doi: 10.18632/oncotarget.8807.
 47. Characterization of TP53 and PI3K signaling pathways as molecular targets in gynecologic malignancies. Oda K, Ikeda Y, Kashiyama T, Miyasaka A, Inaba K, Fukuda T, Asada K, Sone K, Wada-Hiraike O, Kawana K, Osuga Y, [Fujii T](#). *J Obstet Gynaecol Res*. 2016 Jul;42(7):757-62. doi: 10.1111/jog.13018.
 48. Significance of survivin as a prognostic factor and a therapeutic target in endometrial cancer. Chuwa AH, Sone K, Oda K, Ikeda Y, Fukuda T, Wada-Hiraike O, Inaba K, Makii C, Takeuchi M, Oki S, Miyasaka A, Kashiyama T, Arimoto T, Kuramoto H, Kawana K, Yano T, Osuga Y, [Fujii T](#). *Gynecol Oncol*. 2016 Jun;141(3):564-9. doi: 10.1016/j.ygyno.2016.04.003.
 49. Measurement of endometrial thickness by transvaginal ultrasonography to predict pathological response to medroxyprogesterone acetate in patients with grade 1 endometrioid adenocarcinoma. Sato M, Arimoto T, Kawana K, Miyamoto Y, Ikeda Y, Tomio K, Tanikawa M, Sone K, Mori-Uchino M, Tsuruga T, Nagasaka K, Adachi K, Matsumoto Y, Oda K,

- Osuga Y, Fujii T. *Mol Clin Oncol*. 2016 Apr;4(4):492-496.
50. Effects of 1,25-Dihydroxy Vitamin D3 on Endometriosis. Miyashita M, Koga K, Izumi G, Sue F, Makabe T, Taguchi A, Nagai M, Urata Y, Takamura M, Harada M, Hirata T, Hirota Y, Wada-Hiraike O, Fujii T, Osuga Y. *J Clin Endocrinol Metab*. 2016 Jun;101(6):2371-9. doi: 10.1210/jc.2016-1515.
51. A potential role of endoplasmic reticulum stress in development of ovarian hyperstimulation syndrome. Takahashi N, Harada M, Hirota Y, Zhao L, Yoshino O, Urata Y, Izumi G, Takamura M, Hirata T, Koga K, Wada-Hiraike O, Fujii T, Osuga Y. *Mol Cell Endocrinol*. 2016 Jun 15;428:161-9. doi: 10.1016/j.mce.2016.03.032.
52. Systemic delivery of siRNA by actively targeted polyion complex micelles for silencing the E6 and E7 human papillomavirus oncogenes. Nishida H, Matsumoto Y, Kawana K, Christie RJ, Naito M, Kim BS, Toh K, Min HS, Yi Y, Matsumoto Y, Kim HJ, Miyata K, Taguchi A, Tomio K, Yamashita A, Inoue T, Nakamura H, Fujimoto A, Sato M, Yoshida M, Adachi K, Arimoto T, Wada-Hiraike O, Oda K, Nagamatsu T, Nishiyama N, Kataoka K, Osuga Y, Fujii T. *J Control Release*. 2016 Jun 10;231:29-37. doi: 10.1016/j.jconrel.2016.03.016.
53. Enhanced Efficacy against Cervical Carcinomas through Polymeric Micelles Physically Incorporating the Proteasome Inhibitor MG132. Matsumoto Y, Miyamoto Y, Cabral H, Nagasaka K, Nakagawa S, Yano T, Maeda D, Oda K, Kawana K, Nishiyama N, Kataoka K, Osuga Y, Fujii T. *Cancer Sci*. 2016 Mar 14. Doi:10.1111/cas.12926
54. Vaginal cancer possibly caused by pessary and immunocompromised condition: Multiple risk factors may influence vaginal cancer development. Akino N, Wada-Hiraike O, Matsumoto Y, Arimoto T, Oda K, Kawana K, Osuga Y, Fujii T. *J Obstet Gynaecol Res*. 2016 Jun;42(6):748-751. doi: 10.1111/jog.12958.
55. Elevated concentration of secretory leukocyte protease inhibitor in the cervical mucus before delivery. Samejima T, Nagamatsu T, Schust DJ, Itaoka N, Iriyama T, Nakayama T, Komatsu A, Kawana K, Osuga Y, Fujii T. *Am J Obstet Gynecol*. 2016 Jun;214(6):741.e1-7. doi: 10.1016/j.ajog.2015.12.029.
56. Vaginal Stenosis After Gonadotropin-Releasing Hormone Agonist Therapy During Treatment for Acute Lymphoblastic Leukemia. Sato M, Harada M, Oishi H, Wada-Hiraike O, Hirata T, Nagasaka K, Koga K, Fujii T, Osuga Y. *J Low Genit Tract Dis*. 2016 Apr;20(2):e11-3. doi: 10.1097/LGT.000000000000175.
57. Positive peritoneal cytology at interval surgery is a poor prognostic factor in patients with stage T3c advanced ovarian carcinoma: A retrospective study. Nagasaka K, Kawana K, Tomio K, Tsuruga T, Mori-Uchino M, Miura S, Tanikawa M, Miyamoto Y, Ikeda Y, Sone K, Adachi K, Matsumoto Y, Arimoto T, Oda K, Osuga Y, Fujii T. *J Obstet Gynaecol Res*. 2015;41(5):755-62.
58. Cervical Expression of Elafin and SLPI in Pregnancy and Their Association With Preterm Labor. Itaoka N, Nagamatsu T, Schust DJ, Ichikawa M, Sayama S, Iwasawa-Kawai Y, Kawana K, Yamashita T, Osuga Y, Fujii T. *Am J Reprod Immunol*. 2015 Jun;73(6):536-44.
59. Cyclic stretch augments production of neutrophil chemokines, matrix metalloproteinases, and activin A in human endometrial stromal cells. Izumi G, Koga K, Nagai M, Urata Y, Takamura M, Harada M, Hirata T, Hirota Y, Ogawa K, Inoue S, Fujii T, Osuga Y. *Am J Reprod Immunol*. 2015 Jun;73(6):501-6.

60. CCAR2 negatively regulates nuclear receptor LXR α by competing with SIRT1 deacetylase. Sakurabashi A, Wada-Hiraike O, Hirano M, Fu H, Isono W, Fukuda T, Morita Y, Tanikawa M, Miyamoto Y, Oda K, Kawana K, Osuga Y, Fujii T. *J Steroid Biochem Mol Biol.* 2015 May;149:80-8.
61. Laparoscopic excision of ovarian endometrioma does not exert a qualitative effect on ovarian function: insights from in vitro fertilization and single embryo transfer cycles. Harada M, Takahashi N, Hirata T, Koga K, Fujii T, Osuga Y. *J Assist Reprod Genet.* 2015 May;32(5):685-9.
62. The anti-malarial chloroquine suppresses proliferation and overcomes cisplatin resistance of endometrial cancer cells via autophagy inhibition. Fukuda T, Oda K, Wada-Hiraike O, Sone K, Inaba K, Ikeda Y, Miyasaka A, Kashiyama T, Tanikawa M, Arimoto T, Kuramoto H, Yano T, Kawana K, Osuga Y, Fujii T. *Gynecol Oncol.* 2015 Jun;137(3):538-45.
63. HPV-16 impairs the subcellular distribution and levels of expression of protein phosphatase 1 γ in cervical malignancy. Seiki T, Nagasaka K, Kranjec C, Kawana K, Maeda D, Nakamura H, Taguchi A, Matsumoto Y, Arimoto T, Wada-Hiraike O, Oda K, Nakagawa S, Yano T, Fukayama M, Banks L, Osuga Y, Fujii T. *BMC Cancer.* 2015 Apr 7;15:230.
64. PI3K/mTOR pathway inhibition overcomes radioresistance via suppression of the HIF1- α /VEGF pathway in endometrial cancer. Miyasaka A, Oda K, Ikeda Y, Sone K, Fukuda T, Inaba K, Makii C, Enomoto A, Hosoya N, Tanikawa M, Uehara Y, Arimoto T, Kuramoto H, Wada-Hiraike O, Miyagawa K, Yano T, Kawana K, Osuga Y, Fujii T. *Gynecol Oncol.* 2015 Jul;138(1):174-80.
65. Drospirenone induces decidualization in human eutopic endometrial stromal cells and reduces DNA synthesis of human endometriotic stromal cells. Miyashita M, Koga K, Izumi G, Makabe T, Hasegawa A, Hirota Y, Hirata T, Harada M, Fujii T, Osuga Y. *Fertil Steril.* 2015 Jul;104(1):217-24.e2.
66. Four Cases of Postoperative Pneumothorax Among 2814 Consecutive Laparoscopic Gynecologic Surgeries: A Possible Correlation Between Postoperative Pneumothorax and Endometriosis. Hirata T, Nakazawa A, Fukuda S, Hirota Y, Izumi G, Takamura M, Harada M, Koga K, Wada-Hiraike O, Fujii T, Osuga Y. *J Minim Invasive Gynecol.* 2015 Sep-Oct;22(6):980-4.
67. Antitumor activity of a combination of dual PI3K/mTOR inhibitor SAR245409 and selective MEK1/2 inhibitor pimasertib in endometrial carcinomas. Inaba K, Oda K, Ikeda Y, Sone K, Miyasaka A, Kashiyama T, Fukuda T, Uehara Y, Arimoto T, Kuramoto H, Wada-Hiraike O, Kawana K, Yano T, Osuga Y, Fujii T. *Gynecol Oncol.* 2015 Aug;138(2):323-31.
68. Resveratrol Protects Against Pathological Preterm Birth by Suppression of Macrophage-Mediated Inflammation. Furuya H, Taguchi A, Kawana K, Yamashita A, Inoue E, Yoshida M, Nakamura H, Fujimoto A, Inoue T, Sato M, Nishida H, Nagasaka K, Adachi K, Hoya M, Nagamatsu T, Wada-Hiraike O, Yamashita T, Osuga Y, Fujii T. *Reprod Sci.* 2015 Dec;22(12):1561-8.
69. Integrated copy number and expression analysis identifies profiles of whole-arm chromosomal alterations and subgroups with favorable outcome in ovarian clear cell carcinomas. Uehara Y, Oda K, Ikeda Y, Koso T, Tsuji S, Yamamoto S, Asada K, Sone K, Kurikawa R, Makii C, Hagiwara O, Tanikawa M, Maeda D, Hasegawa K, Nakagawa S, Wada-Hiraike O,

- Kawana K, Fukayama M, Fujiwara K, Yano T, Osuga Y, Fujii T, Aburatani H. *PLoS One*. 2015 Jun 4;10(6):e0128066.
70. Placental autotaxin expression is diminished in women with pre-eclampsia. Ichikawa M, Nagamatsu T, Schust DJ, Kawai-Iwasawa Y, Kawana K, Yamashita T, Osuga Y, Aoki J, Yatomi Y, Fujii T. *J Obstet Gynaecol Res*. 2015 Sep;41(9):1406-11
71. HAND2-mediated proteolysis negatively regulates the function of estrogen receptor α . Fukuda T, Shirane A, Wada-Hiraike O, Oda K, Tanikawa M, Sakuabashi A, Hirano M, Fu H, Morita Y, Miyamoto Y, Inaba K, Kawana K, Osuga Y, Fujii T. *Mol Med Rep*. 2015 Oct;12(4):5538-44.
72. Putative tumor suppression function of SIRT6 in endometrial cancer. Fukuda T, Wada-Hiraike O, Oda K, Tanikawa M, Makii C, Inaba K, Miyasaka A, Miyamoto Y, Yano T, Maeda D, Sasaki T, Kawana K, Fukayama M, Osuga Y, Fujii T. *FEBS Lett*. 2015 Aug 4;589(17):2274-81.
73. Evidence of the activation of unfolded protein response in granulosa and cumulus cells during follicular growth and maturation. Harada M, Nose E, Takahashi N, Hirota Y, Hirata T, Yoshino O, Koga K, Fujii T, Osuga Y. *Gynecol Endocrinol*. 2015 Oct;31(10):783-7.
74. Prevention of the recurrence of symptom and lesions after conservative surgery for endometriosis. Koga K, Takamura M, Fujii T, Osuga Y. *Fertil Steril*. 2015 Oct;104(4):793-801.
75. Simultaneous Detection and Evaluation of Four Subsets of CD4+ T Lymphocyte in Lesions and Peripheral Blood in Endometriosis. Takamura M, Koga K, Izumi G, Hirata T, Harada M, Hirota Y, Hiraike O, Fujii T, Osuga Y. *Am J Reprod Immunol*. 2015 Dec;74(6):480-6.
76. Elective single-embryo transfer improves cumulative pregnancy outcome in young patients but not in women of advanced reproductive age. Fujimoto A, Morishima K, Harada M, Hirata T, Osuga Y, Fujii T. *J Assist Reprod Genet*. 2015 Dec;32(12):1773-9.
77. Clinical significance of Gremlin 1 in cervical cancer and its effects on cancer stem cell maintenance. Sato M, Kawana K, Fujimoto A, Yoshida M, Nakamura H, Nishida H, Inoue T, Taguchi A, Takahashi J, Adachi K, Nagasaka K, Matsumoto Y, Wada-Hiraike O, Oda K, Osuga Y, Fujii T. *Oncol Rep*. 2016 Jan;35(1):391-7.
78. Prognostic importance of CDK4/6-specific activity as a predictive marker for recurrence in patients with endometrial cancer, with or without adjuvant chemotherapy. Ikeda Y, Oda K, Ishihara H, Wada-Hiraike O, Miyasaka A, Kashiyama T, Inaba K, Fukuda T, Sone K, Matsumoto Y, Arimoto T, Maeda D, Ikemura M, Fukayama M, Kawana K, Yano T, Aoki D, Osuga Y, Fujii T. *Br J Cancer*. 2015 Nov 17;113(10):1477-83.
79. A case of pregnancy complicated with dilated cardiomyopathy 1X. Oki S, Nagamatsu T, Iriyama T, Komatsu A, Osuga Y, Fujii T. *Oxf Med Case Reports*. 2015 Nov 3;2015(11):351-3.
80. Decreased expression of the plasminogen activator inhibitor type 1 is involved in degradation of extracellular matrix surrounding cervical cancer stem cells. Sato M, Kawana K, Adachi K, Fujimoto A, Yoshida M, Nakamura H, Nishida H, Inoue T, Taguchi A, Takahashi J, Kojima S, Yamashita A, Tomio K, Nagamatsu T, Wada-Hiraike O, Oda K, Osuga Y, Fujii T. *Int J Oncol*. 2016 Feb;48(2):829-35.
81. Tanaka T, Takahashi K, Hirano H, Kikutani T, Watanabe Y, Ohara Y,

- Furuya H, Tsuji T, Akishita M, Iijima K. Oral Frailty as a Risk Factor for Physical Frailty and Mortality in Community-Dwelling Elderly. *J Gerontol A Biol Sci Med Sci*. 2017 Nov 17. [Epub ahead of print]
82. Tanaka T, Takahashi K, Akishita M, Tsuji T, Iijima K. "Yubi-wakka" (finger-ring) test: A practical self-screening method for sarcopenia, and a predictor of disability and mortality among Japanese community-dwelling older adults. *Geriatr Gerontol Int*. 2018;18:224-232.
 83. Yakabe M, Ogawa S, Ota H, Iijima K, Eto M, Ouchi Y, Akishita M. Inhibition of interleukin-6 decreases atrogene expression and ameliorates tail suspension-induced skeletal muscle atrophy. *PLoS One*. 2018;13:e0191318.
 84. Ouchi Y, Rakugi H, Arai H, Akishita M, Ito H, Toba K, Kai I; Joint Committee of Japan Gerontological Society (JGLS) and Japan Geriatrics Society (JGS) on the definition and classification of the elderly. Redefining the elderly as aged 75 years and older: Proposal from the Joint Committee of Japan Gerontological Society and the Japan Geriatrics Society. *Geriatr Gerontol Int*. 2017;17:1045-1047.
 85. Umeda-Kameyama Y, Ishii S, Kameyama M, Kondo K, Ochi A, Yamasoba T, Ogawa S, Akishita M. Heterogeneity of odorant identification impairment in patients with Alzheimer's Disease. *Sci Rep*. 2017;7:4798.
 86. Nanao-Hamai M, Son BK, Hashizume T, Ogawa S, Akishita M. Protective effects of estrogen against vascular calcification via estrogen receptor α -dependent growth arrest-specific gene 6 transactivation. *Biochem Biophys Res Commun*. 2016;480:429-435.
 87. Ishii S, Chang C, Tanaka T, Kuroda A, Tsuji T, Akishita M, Iijima K. The Association between Sarcopenic Obesity and Depressive Symptoms in Older Japanese Adults. *PLoS One*. 2016;11:e0162898.
 88. Shibasaki K, Yamada S, Ouchi Y, Akishita M, Ogawa S. Effect of Rehabilitation on Recovery of Sympathetic Nervous Activity Measured According to Heart Rate Variability in Frail Elderly Adults. *J Am Geriatr Soc*. 2016;64:e15-6.
 89. Niimi A, Suzuki M, Yamaguchi Y, Ishii M, Fujimura T, Nakagawa T, Fukuhara H, Kume H, Igawa Y, Akishita M, Homma Y. Sleep Apnea and Circadian Extracellular Fluid Change as an Independent Factor for Nocturnal Polyuria. *J Urol*. 2016;196:1183-9.
 90. Akiyoshi T, Ota H, Iijima K, Son BK, Kahyo T, Setou M, Ogawa S, Ouchi Y, Akishita M. A novel organ culture model of aorta for vascular calcification. *Atherosclerosis*. 2016;244:51-8.
 91. Shibasaki K, Ogawa S, Yamada S, Iijima K, Eto M, Kozaki K, Toba K, Ouchi Y, Akishita M. Favorable effect of sympathetic nervous activity on rehabilitation outcomes in frail elderly. *J Am Med Dir Assoc*. 2015;16:799.e7-799.e12.
 92. Ishii S, Ogawa S, Akishita M. The State of Health in Older Adults in Japan: Trends in Disability, Chronic Medical Conditions and Mortality. *PLoS One*. 2015;10:e0139639.
 93. Tamiya H, Yasunaga H, Matusi H, Fushimi K, Ogawa S, Akishita M. Hypnotics and the occurrence of bone fractures in hospitalized dementia patients: a matched case-control study using a national inpatient database. *PLoS One*. 2015;10:e0129366.
 94. Kuroda A, Tanaka T, Hirano H, Ohara Y, Kikutani T, Furuya H, Obuchi SP, Kawai H, Ishii S, Akishita M, Tsuji T, Iijima K.

- Eating alone as social disengagement is strongly associated with depressive symptoms in Japanese community-dwelling older adults. *J Am Med Dir Assoc.* 2015;16:578-85.
95. Yamaguchi Y, Hibi S, Ishii M, Hanaoka Y, Yamamoto H, Ouchi Y, Akishita M. Removal of the CPAP therapy device during sleep and its association with body position changes and oxygen desaturations. *Respir Care* 60:658-65, 2015.
 96. Ishii S, Tanaka T, Akishita M, Iijima K. Re: Growing research on sarcopenia in Asia. *Geriatr Gerontol Int* 15:238-9, 2015.
 97. Ishii S, Tanaka T, Ouchi Y, Akishita M, Iijima K. Development of conversion formulae between 4-m, 5-m and 6-m gait speed. *Geriatr Gerontol Int* 15:233-4, 2015.
 98. Fujii T, Oka H, Katsuhira J, Tonosu J, Kasahara S, Tanaka S, Matsudaira K. Association between somatic symptom burden and health-related quality of life in people with chronic low back pain. *PLoS One.* 2018 Feb 20;13(2):e0193208. doi: 10.1371/journal.pone.0193208. eCollection 2018.
 99. Yamada K, Muranaga S, Shinozaki T, Nakamura K, Tanaka S, Ogata T. Age independency of mobility decrease assessed using the Locomotive Syndrome Risk Test in elderly with disability: a cross-sectional study. *BMC Geriatr.* 2018 Jan 26;18(1):28. doi: 10.1186/s12877-017-0698-7.
 100. Tonosu J, Inanami H, Oka H, Takano Y, Koga H, Yuzawa Y, Shiboi R, Oshima Y, Baba S, Tanaka S, Matsudaira K. Factors related to subjective satisfaction following microendoscopic foraminotomy for cervical radiculopathy. *BMC Musculoskelet Disord.* 2018 Jan 24;19(1):30.
 101. Fujii T, Oka H, Katsuhira J, Tonosu J, Kasahara S, Tanaka S, Matsudaira K. Disability due to knee pain and somatising tendency in Japanese adults. *BMC Musculoskelet Disord.* 2018 Jan 19;19(1):23. doi: 10.1186/s12891-018-1940-y.
 102. Oka H, Matsudaira K, Takano Y, Kasuya D, Niiya M, Tonosu J, Fukushima M, Oshima Y, Fujii T, Tanaka S, Inanami H. A comparative study of three conservative treatments in patients with lumbar spinal stenosis: lumbar spinal stenosis with acupuncture and physical therapy study (LAP study). *BMC Complement Altern Med.* 2018 Jan 19;18(1):19. doi: 10.1186/s12906-018-2087-y.
 103. Tonosu J, Oka H, Higashikawa A, Okazaki H, Tanaka S, Matsudaira K. The associations between magnetic resonance imaging findings and low back pain: A 10-year longitudinal analysis. *PLoS One.* 2017 Nov 15;12(11):e0188057. doi: 10.1371/journal.pone.0188057. eCollection 2017.
 104. Yoshimura N, Muraki S, Oka H, Iidaka T, Kodama R, Kawaguchi H, Nakamura K, Tanaka S, Akune T. Is osteoporosis a predictor for future sarcopenia or vice versa? Four-year observations between the second and third ROAD study surveys. *Osteoporos Int.* 2017 Jan;28(1):189-99.
 105. Yoshimura N, Muraki S, Nakamura K, Tanaka S. Epidemiology of the locomotive syndrome: The research on osteoarthritis/osteoporosis against disability study 2005-2015. *Mod Rheumatol.* 2017 Jan;27(1):1-7.
 106. Yoshimoto T, Oka H, Katsuhira J, Fujii T, Masuda K, Tanaka S, Matsudaira K. Prognostic psychosocial factors for disabling low back pain in Japanese hospital workers. *PLoS One.*

- 2017;12(5):e0177908.
107. Tonosu J, Oka H, Matsudaira K, Higashikawa A, Okazaki H, Tanaka S. The relationship between findings on magnetic resonance imaging and previous history of low back pain. *J Pain Res.* 2017;10:47-52.
 108. Oka H, Matsudaira K, Fujii T, Tanaka S, Kitagawa T. Epidemiology and psychological factors of whiplash associated disorders in Japanese population. *J Phys Ther Sci.* 2017 Sep;29(9):1510-3.
 109. Oka H, Matsudaira K, Fujii T, Kikuchi N, Haga Y, Sawada T, Katsuhira J, Yoshimoto T, Kawamata K, Tonosu J, Sumitani M, Kasahara S, Tanaka S. Estimated risk for chronic pain determined using the generic STarT Back 5-item screening tool. *J Pain Res.* 2017;10:461-7.
 110. Oka H, Kadono Y, Ohashi S, Yasui T, Ono K, Matsudaira K, Nishino J, Tanaka S. Assessing joint destruction in the knees of patients with rheumatoid arthritis by using a semi-automated software for magnetic resonance imaging: therapeutic effect of methotrexate plus etanercept compared with methotrexate monotherapy. *Mod Rheumatol.* 2017 Aug 02:1-7.
 111. Matsudaira K, Oka H, Kikuchi N, Haga Y, Sawada T, Tanaka S. The Japanese version of the STarT Back Tool predicts 6-month clinical outcomes of low back pain. *J Orthop Sci.* 2017 Mar;22(2):224-9.
 112. Matsubayashi Y, Chikuda H, Oshima Y, Taniguchi Y, Fujimoto Y, Shimizu T, Tanaka S. C7 sagittal vertical axis is the determinant of the C5-C7 angle in cervical sagittal alignment. *Spine J.* 2017 May;17(5):622-6.
 113. Fukushima M, Oka H, Hara N, Oshima Y, Chikuda H, Tanaka S, Takeshita K, Matsudaira K. Prognostic factors associated with the surgical indication for lumbar spinal stenosis patients less responsive to conservative treatments: An investigator-initiated observational cohort study. *J Orthop Sci.* 2017 May;22(3):411-4.
 114. Tonosu J, Matsudaira K, Oka H, Okazaki H, Oshio T, Hanaoka I, Muraoka Y, Midorikawa M, Wakabayashi K, Tanaka S. A population approach to analyze the effectiveness of a back extension exercise "One Stretch" in patients with low back pain: A replication study. *J Orthop Sci.* 2016 Jul;21(4):414-8.
 115. Tonosu J, Inanami H, Oka H, Katsuhira J, Takano Y, Koga H, Yuzawa Y, Shioi R, Oshima Y, Baba S, Tanaka S, Matsudaira K. Diagnosing Discogenic Low Back Pain Associated with Degenerative Disc Disease Using a Medical Interview. *PLoS One.* 2016;11(11):e0166031.
 116. Ohya J, Oshima Y, Chikuda H, Oichi T, Matsui H, Fushimi K, Tanaka S, Yasunaga H. Does the microendoscopic technique reduce mortality and major complications in patients undergoing lumbar discectomy? A propensity score-matched analysis using a nationwide administrative database. *Neurosurg Focus.* 2016 Feb;40(2):E5.
 117. Ohya J, Chikuda H, Nakatomi H, Sakamoto R, Saito N, Tanaka S. Acute obstructive hydrocephalus complicating decompression surgery of the craniovertebral junction. *Asian J Neurosurg.* 2016 Jul-Sep;11(3):311-2.
 118. Ohashi S, Ohnishi I, Oka H, Matsumoto T, Bessho M, Nakamura K, Tanaka S. The effect of cartilage degeneration on ultrasound speed in human articular cartilage. *Mod Rheumatol.* 2016;26(3):426-34.
 119. Nakajima K, Taketomi S, Inui H,

- Nakamura K, Sanada T, Tanaka S. Missed Medial Malleolar Fracture Associated With Achilles Tendon Rupture: A Case Report and Literature Review. *J Foot Ankle Surg.* 2016 Jan-Feb;55(1):169-72.
120. Naito M, Mori M, Inagawa M, Miyata K, Hashimoto N, Tanaka S, Asahara H. Dnmt3a Regulates Proliferation of Muscle Satellite Cells via p57Kip2. *PLoS Genet.* 2016 Jul;12(7):e1006167.
121. Matsudaira K, Oka H, Kikuchi N, Haga Y, Sawada T, Tanaka S. Psychometric Properties of the Japanese Version of the STarT Back Tool in Patients with Low Back Pain. *PLoS One.* 2016;11(3):e0152019.
122. Matsudaira K, Hara N, Oka H, Kunogi J, Yamazaki T, Takeshita K, Atsushi S, Tanaka S. Predictive Factors for Subjective Improvement in Lumbar Spinal Stenosis Patients with Nonsurgical Treatment: A 3-Year Prospective Cohort Study. *PLoS One.* 2016;11(2):e0148584.
123. Matsubayashi Y, Shimizu T, Chikuda H, Takeshita K, Oshima Y, Tanaka S. Correlations of Cervical Sagittal Alignment before and after Occipitocervical Fusion. *Global Spine J.* 2016 Jun;6(4):362-9.
124. Ohya J, Chikuda H, Oichi T, Horiguchi H, Takeshita K, Tanaka S, Yasunaga H. Perioperative stroke in patients undergoing elective spinal surgery: a retrospective analysis using the Japanese diagnosis procedure combination database. *BMC Musculoskelet Disord.* 2015 Oct 2;16:276. doi: 10.1186/s12891-015-0743-7. PubMed PMID: 26431951; PubMed Central PMCID: PMC4592557.
125. Kato S, Chikuda H, Ohya J, Hayakawa K, Takeshita K, Tanaka S, Ogata T. Phosphorylated neurofilament subunit levels in the serum of cervical compressive myelopathy patients. *J Clin Neurosci.* 2015 Oct;22(10):1638-42. doi: 10.1016/j.jocn.2015.03.047. Epub 2015 Jul 17. PubMed PMID: 26195334.
126. Oka H, Matsudaira K, Fujii T, Okazaki H, Shinkai Y, Tsuji Y, Tanaka S, Kato R. Risk Factors for Prolonged Treatment of Whiplash-Associated Disorders. *PLoS One.* 2015 Jul 6;10(7):e0132191. doi: 10.1371/journal.pone.0132191. eCollection 2015. PubMed PMID: 26147998; PubMed Central PMCID: PMC4492561.
127. Yoshimura N, Muraki S, Oka H, Tanaka S, Ogata T, Kawaguchi H, Akune T, Nakamura K. Association between new indices in the locomotive syndrome risk test and decline in mobility: third survey of the ROAD study. *J Orthop Sci.* 2015 Sep;20(5):896-905. doi: 10.1007/s00776-015-0741-5. Epub 2015 Jun 25. Erratum in: *J Orthop Sci.* 2015 Sep;20(5):906. PubMed PMID: 26104219; PubMed Central PMCID: PMC4575347.
128. Kato S, Oshima Y, Oka H, Chikuda H, Takeshita Y, Miyoshi K, Kawamura N, Masuda K, Kunogi J, Okazaki R, Azuma S, Hara N, Tanaka S, Takeshita K. Comparison of the Japanese Orthopaedic Association (JOA) score and modified JOA (mJOA) score for the assessment of cervical myelopathy: a multicenter observational study. *PLoS One.* 2015 Apr 2;10(4):e0123022. doi: 10.1371/journal.pone.0123022. eCollection 2015. Erratum in: *PLoS One.* 2015;10(5):e0128392. PubMed PMID: 25837285; PubMed Central PMCID: PMC4383381.
129. 市橋香代:統合失調症の薬物療法. *医学のあゆみ* 261 巻 10 号;961-966;2017 年 6 月
130. 市橋香代「あらたに生きる意味」は見つかったのかーいやなことが積み重なると死

- にたくなる」からの出発: 神戸松蔭こころのケア・センター臨床心理学研究; 10:50-52;2016年
131. 市橋香代: 恋愛依存は自立へのパスポートになったのか: 神戸松蔭こころのケア・センター臨床心理学研究; 11;50-52;2016年
132. 市橋香代: 家族療法はいかに理解されて実践されてきたか: ブリーフサイコセラピー研究; 2015;10:94-95
133. 谷垣伸治, 村岡由真, 本田理貢, 鳥海玲奈, 田中啓, 松島実穂, 松澤由記子, 井澤朋子, 岩下光利. 脳性麻痺をいかに予防するか? - 産科医療補償制度再発防止に関する報告書をもとに 臍帯脱出の誘因・診断・対処法. 周産期医学; 2018; 48(3):329-332.
134. Suyama F, Ogawa K, Tazaki Y, Miwa T, Taniguchi K, Nakamura N, Tanaka S, Tanigaki S, Sago H. The outcomes and risk factors of fetal bradycardia associated with external cephalic version. J Matern Fetal Neonatal Med. Epub. 2017
135. Kaneko K, Mishima S, Goto M, Mitsui M, Tanigaki S, Oku K, Ozawa N, Inoue E, Atsumi T, Sago H, Murashima A. Clinical feature and anti-phospholipid antibody profiles of pregnancy failure in young women with antiphospholipid antibody syndrome treated with conventional therapy. Modern Rheumatology. Epub.2017
136. Ogawa K, Urayama KY, Tanigaki S, Sago H, Sato S, Saito S, Morisaki N. Association between very advanced maternal age and adverse pregnancy outcomes: a cross sectional Japanese study. BMC Pregnancy Childbirth. 17(1) epub.2017
137. Tanigaki S, Nagata C, Ueno K, Ozawa N, Nagaoka S, Tanaka K, Sago H, Iwashita M, Successful treatment of caesarean scar pregnancies by local treatment only. Obstetrics and Gynecology International. epub. 2017
138. Da Silva Lopes K, Takemoto Y, Ota E, Tanigaki S, Mori R. Bed rest with and without hospitalization in multiple pregnancy for improving perinatal outcomes. Cochrane Database Syst Rev.2017 Mar 6.epub.
139. 永森久美子 [ケアの解説], 谷垣伸治 [エビデンス解説], 小川浩平, 芝田恵, 左合治彦: 吐き気・嘔吐.ペリネイタルケア;36(9);50-54;2017.
140. 谷垣伸治, 中村紀友喜, 芝田恵, 高橋由佳, 串本卓哉, 松井仁志, 左合治彦:胎児腹腔内異常像の鑑別ポイントは?:臨産 71 (増刊号)79-84;2017
141. 谷垣伸治, 芝田恵, 舟木哲, 小川浩平, 赤石理奈, 佐々木愛子, 左合治彦:妊産婦の発熱;周産期医学; 47(増刊号) 87-91;2017
142. 谷垣伸治, 芝田恵, 松井仁志, 串本卓哉, 左合治彦:子宮底圧迫法(クリステレル胎児圧出法):ペリネイタルケア;36(2);64-68;2017
143. 谷垣伸治, 金沢誠司, 松島幸生, 宮入烈, 左合治彦:妊娠と感染症 - 外来で聞かれてどう説明する? 2 . 風疹 . 産と婦; 83(9) 1004-1009,2016
144. 谷垣伸治, 赤石理奈, 松島幸生, 金沢誠司, 林田愛唯, 宮美智子, 左合治彦: 一步進んだ胎児超音波検査 具体的な描出法 / 測定方法を教えます 顔・頸部・胸腺:周産期医学;46(5); 525-530;2016
145. 谷垣伸治, 梅原永能, 林田愛唯, 中村紀友喜, 宮美智子, 左合治彦:胎児の発達・発育 中後期;周産期医学; 46(増刊号)405-408;2016
146. 谷垣伸治, 松島幸生, 鈴木朋, 小川浩平, 関口将軌, 村島温子, 左合治彦:胎児の発達・発育 初期:周産期医学;46(増刊号) 402-404;2016
147. 國府悦子, 関口将軌, 芝田恵, 木野本智子, 大寺由佳, 小川浩平, 三井真理, 梅原永能, 谷垣伸治:絨毛膜羊膜炎用の症状を呈し, 子宮筋症への感染が推測された 1 例:東京産科婦人科学会誌;65(3);488-492;2016
148. 平山佳奈, 谷垣伸治, 関口将軌, 金子佳代子, 武藤美紀, 杉林里佳, 小澤伸晃, 左合治彦:正常妊婦に突然発症し永続した視野

- 欠損の 1 例:東京産科婦人科学会会誌;65(1); 149-152;2016
149. 林田愛唯, 菊地範彦, 須山文緒, 高橋健, 芝田恵, 小川浩平, 関口将軌, 小澤克典, 谷垣伸治, 塚原優己, 左合治彦: 経膈分娩時に acute feto-fetal hemorrhage を発症した一絨毛膜二羊膜双胎妊娠: 東京産科婦人科学会会誌; 64(4); 621-625; 2015
150. Tanaka K, Miyazaki N, Matsushima M, Yagishita R, Izawa T, Tanigaki S, Sakai K, Iwashita M. Prenatal diagnosis of Klippel–Trenaunay–Weber syndrome with Kasabach–Merritt syndrome in utero. *J Med Ultrasonics*.42. 109-112. 2015
151. 谷垣伸治, 芝田恵, 須山文緒, 中村紀友喜, 松島幸生, 鈴木朋, 菊地範彦, 左合治彦: 今さら聞けない超音波検査の ABC 産科の超音波 妊娠 20 週前後に行われる胎児異常のスクリーニング: 周産期医学; 45(10)1352-1359; 2015
152. 谷垣伸治, 須山文緒, 芝田恵, 木野本智子, 松島幸生, 鈴木朋, 菊地範彦, 左合治彦: 専攻医必読 基礎から学ぶ周産期超音波診断のポイント 妊娠中後期 胎児計測の基本:臨産; 69(7);640-647;2015
153. 谷垣伸治, 西山深雪, 高橋健, 村本美華, 芝田恵, 鈴木朋, 小澤伸晃, 左合治彦: 高齢妊娠を知る 胎児・新生児 染色体異常: 産婦人科の実際;64(4);535-540;2015
154. 谷垣伸治, 関口将軌, 菊地範彦, 小澤伸晃, 左合治彦: 「いつする?」「なぜする?」妊婦健診 05 検査で「変だな……」を見逃さない. *ペリネイタルケア*;34(4);86-394;2015
2. ケアラーの支援, 市橋香代, 精神科研修ノート 2016,31-32
3. 薬物療法の適正化, 市橋香代, 精神科研修ノート 2016,246-24
4. 患者や家族へのわかりやすい心理教育, 市橋香代, 精神科研修ノート 2016,246-247
- 2.学会発表
1. K-ras and c-myc modulate tumor microenvironment of peritoneal carcinomatosis and enhance its tumorigenesis. Mitsuyo Yoshida, Ayumi Taguchi, Kei Kawana, Kensuke Tomio, Hiroe Nakamura, Asaha Fujimoto, Aki Yamashita, Kazunori Nagasaka, Katsuyuki Adachi, Kaori Koga, Katsutoshi Oda, Tohru Kiyono, Yutaka Osuga, Tomoyuki Fujii. The 74th Annual Meeting of the Japanese Cancer Association. 2015 Oct.
2. Prevention of preterm labor by OMEGA-3 polyunsaturated fatty acids and resolving E3. Inoue E, Nagamatsu T, Kawana K, Yamashita T, Osuga Y, Fujii T. 12th World Congress of Perinatal Medicine. 2015 Nov.
3. Endometrial regeneration in the mouse model of decellularized matrix transplantation. Takehiro Hiraoka, Yasushi Hirota, Tomoko Saito-Fujita, Tomoki Tanaka, Mitsunori Matsuo, Mahiro Egashira, Leona Matsumoto, Hirofumi Haraguchi, Katsuko S. Furukawa, Yutaka Osuga, Tomoyuki Fujii. The 39th Annual Meeting of the Molecular Biology Society of Japan. 2015 Dec.
4. Efficacy of eicosapentaenoic acid supplementation in the women with unexplained recurrent pregnancy loss. Inoue E, Nagamatsu T, Kubota K, Kawana K, Yamashita T, Osuga Y, Fujii T. The World Congress on Recurrent Pregnancy Loss. 2016 Jan.
5. 秋下雅弘 (教育講演): 循環器系の加齢とフレイル. 日本心臓病学会学術集会, 大阪, 2017.9.29.
6. Akishita M (Plenary lecture): Sex, Aging and Cognitive Decline. 8th Congress of the

[書籍]

1. 女性の健康の包括的支援総合研究事業・女性の健康の包括的支援のための情報収集・情報発信と医療提供体制等に関する研究
平成 28 年度 厚生労働科学研究費補助金総括研究報告書
藤井知行 平成 29 (2017) 年 5 月

- International Society for Gender Medicine. Sendai, 2017.9. 15.
7. 秋下雅弘 (教育講演) : 動脈硬化性疾患と性ホルモン . 日本動脈硬化学会学術集会 , 広島 , 2017.7.6.
 8. 秋下雅弘 (特別講演) : ケアをするうえで知っておくべきお薬の話 . 日本認知症ケア学会大会 , 那覇 , 2017.5.26.
 9. 秋下雅弘 (特別講演) : フレイルやポリファーマシー、高齢者の定義見直し等について . 日本老年脳神経外科学会 , 東京 , 2017.4.21.
 10. 秋下雅弘 (特別講演) : 超高齢社会と生活習慣病 . 日本成人病 (生活習慣病) 学会学術集会 , 東京 , 2017.1.15.
 11. Akishita M (Lecture): Role of sex hormones in cardiovascular disease: implication for drug development. International and Interdisciplinary Symposium 2016 "Towards a New Era of Cardiovascular Research" (ISC2016). Tokyo, 2016.7. 12.
 12. 秋下雅弘 (講演) : バランスの良い老化とは . 日本女性薬剤師会学術講演会 , 東京 , 2016.6.19.
 13. 秋下雅弘 (専門医・指導士教育プログラム) : 明日に向けたアンチエイジングアプローチ - DHEA 補充療法の未来 . 日本抗加齢医学会総会 , 横浜 , 2016.6.12.
 14. 秋下雅弘 (シンポジウム) : 内部機能の再生と腎臓リハビリテーション: 高齢者・CKD におけるフレイル、サルコペニアの病態解明と予防・治療法 . 日本腎臓リハビリテーション学会学術集会 , 岡山 , 2016.3.26.
 15. Akishita M (Lecture): How the Asian Consensus for Sarcopenia Diagnosis Improves Research of Sarcopenia. 1st Asian Conference for Frailty and Sarcopenia. Taipei, Taiwan, 2015.11. 13.
 16. 秋下雅弘 (特別講演) : 女性と認知症 . 日本女性医学学会学術集会 , 名古屋 , 2015.11.7.
 17. Akishita M (Invited Symposium): Mental Health: From Disease to Community Mental Health Promotion. Association of Dementia and other Geriatric Syndrome. International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania 2015 Congress. Chiang Mai, Thailand, 2015.10. 21.
 18. 秋下雅弘 (シンポジウム) : JSH2014 推奨グレード C1: 現状と今後への課題 . 認知症を見据えた降圧治療: 予防効果と認知症患者へのアプローチ . 日本高血圧学会総会 , 松山 , 2015.10.10.
 19. 秋下雅弘 (特別講演) : 我が国の健康寿命とフレイル: 課題と展望 . 日本 Men's Health 医学会総会 , 埼玉 , 2015.9.4.
 20. 秋下雅弘 (シンポジウム) : 新しい高齢者の定義 . 老年疾患の時代推移: 有病率は高齢期へシフトしているか . 日本老年学会総会 , 横浜 , 2015.6.12.
 21. 市橋香代 : 統合失調症の早期支援について . 第 20 回岐阜県作業療法学会 , 大垣 , 2016.5.22
 22. 市橋香代 : リハビリテーションと家族 . 第 33 回日本家族研究・家族療法学会 , 長崎 , 2016.9.17
 23. 市橋香代 : 発達と改善・回復をもたらすもの～総論とリカバリーについて～ . 第 25 回日本ブリーフサイコセラピー学会 , 札幌 , 2017
 24. 市橋香代、北原幸子 : 体力と復職 (2) : 職場復帰に向けた体力と自己評価の変遷について . 第 15 回日本スポーツ精神医学会総会・学術集会 , 鶴岡 , 2017.9.9
 25. 市橋香代、北原幸子 : 体力と復職(1) : 職場復帰に向けて必要な体力の回復について . 第 16 回日本スポーツ精神医学会 総会・学術集会 , 鶴岡 , 2017.9.10
 26. Shinji Tanigaki, Chie Nagata, Mitsutoshi Iwashita: Cesarean scar pregnancy: Is an operation unavoidable? BIT's 5th Annual Global Health Conference-2017 (ICGO). Taiyuan,
 27. 谷垣伸治(教育講演) : 助産師の行う超音波検査(チーム医療推進助産師研修).東京母性衛生学会 , 東京 , 2017.9.17
 28. 谷垣伸治(ランチオンセミナー4) : たかが帝切 , されど帝切 . 第 143 回東北連合産科婦人科学会総会・学術講演会 , 秋田 , 2017.6.18

29. 谷垣伸治,松島幸生,赤石理奈,小澤克典,左合治彦:小児科医に対する産科シミュレーション基盤型教育の効果.日本産科婦人科学会第69回学術講演会,広島,2017.4.16
30. 若尾文彦:がん診療とセクシャリティ。シンポジウムがん患者の「生」を見守り、「性」を考える～充実したサバイバーシップを実現する社会のために～,第11回日本緩和医療学会年会,札幌,2017.6.3
31. 若尾文彦:がん教育におけるがん診療連携拠点病院等の役割 合同シンポジウム学校における「がん教育」～本格始動の年における現状と課題～,第15回日本臨床腫瘍学会学術集会,神戸,2017.7.27
32. 若尾文彦:がん患者体験調査によるがん対策評価,第76回日本癌学会学術総会,横浜,2017.9.30
33. 若尾文彦:信頼できるがん情報の探し方,第58回日本肺癌学会学術集会,横浜,2017.10.15.
34. 若尾文彦:がん登録。がん患者・支援者プログラム.第55回日本癌治療学会学術集会,横浜,2017.10.21
35. 対馬ルリ子:制裁医療と女性外来～今の日本に必要なもの～.脳心血管抗加齢研究会2017.12.26,大阪.
36. 対馬ルリ子:女性医療の現状と問題.第21回日本統合医療学会,東京,2017.11.26
37. 対馬ルリ子:思春期から考える 子宮頸がんワクチン.第54回東京思春期保健研究会,東京,2017.11.5.
38. 対馬ルリ子:澤穂希さんが実践してきた健康への意識.第32回日本女性医学学会,大阪,2017.11.5
39. 対馬ルリ子:十代の性感染症(HIV/AIDS、梅毒)の実態と予防.第36回日本思春期学会,東京,2017.8.26.
- H. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む。)
- なし。
- 1.特許取得
なし。
- 2.実用新案登録
なし。
- 3.その他
なし。